

津谷市政の二期目がスタート

市長選挙(4月7日執行)で津谷永光氏が再選



再選後、初登庁

合併後3回目となる北秋田市長選挙が3月31日告示、4月7日に投票が行われ、津谷永光氏が再選を果たしました。

4月9日には、多くの市役所職員らに迎えられながら初登庁し、市役所玄関前で女性職員から花束を受け取った津谷市長は、職員らの大きな拍手に「またよろしくお願ひします」と笑顔で応えながら庁舎に入りました。

登庁後すぐに応接室で行われた報道各社のインタビューでは、初登庁の気持ちを聞かれ「普段なかなか市民の方々の声を直接聞く機会が少なかったので、広い北秋田市を駆け巡ってよかったですと思っています。色々な地域の課題や、地域の方々の市に対する期待や不満もあるので、これから問題解決に向け、がんばらなければいけないと気持ちを新たにしました。登庁させていただいた」などと答えました。

職員への訓示

● 市民へ丁寧で詳しい情報提供を

初登庁したこの日、幹部職員と新規採用職員を前に訓示し「市内をくまなく回ったが、私たち市がやってきたことが、市民に必ずしも正しく伝わり、理解されているというわけではないと感じた。さらに丁寧で詳しい情報の提供が必要だと考えている。担当しているそれぞれの分野の職員が、市民のためにこうした仕事をしているということをしっかりと示していけば、もつともつと、市に対して理解をしていただけるとともに、市民の不満や不安が少しずつ解消されると思っている」と述べ、職員に奮起を促しました。

● 出来ないことは、どうすれば出来るかを考える

今後の市政運営にあたっては、雇用対策、保育や子育て環境整備、定住支援、住宅リフォーム支援、結婚支援、中心市街地活性化対策などが

◇ 市長就任のごあいさつ ◇

この度、北秋田市長選挙におきまして、市民の皆様からのご信任をいただき、引き続き二期目の市政運営を担うこととなりました。

初当選時より「元気で活力ある北秋田市」を目指して、市民の皆様とともにまちづくりに取り組み、北秋田市民病院や阿仁スキー場のゴンドラ、さらには秋田内陸線など合併時からの懸案事項へも一定の方向性を示すことができました。

そして、一期目の後半からは北秋田市の積極的なPRを図るために、北あきたバター餅の特産品化や都内アンテナショップへの参加、さらには八幡平クマ牧場の熊の受入れの決定などを行うことで、市の知名度アップに傾注してまいりましたが、今後もさらなる取り組みを強化してまいりたいと考えております。

少子高齢化社会が進む中、当市においても地域の活力の低下が懸念されますが、自助・共助・公助のバランスをとりながら、これまでの概念にとらわれずに、全国的にもモデルとなるような北秋田市版の行政サービスの形を作り上げたいと考えております。

北秋田市は、美しく豊かな自然と地域ごとに特色のある文化や資源など無限の可能性を秘めた全国にも誇れる「まち」であります。ぜひとも、この「まち」を全国に向けて「発信」するとともに、埋もれている地域の宝を「発掘」し、市民が憩い、にぎわいあふれる明るく元気な北秋田市に「発展」していけるような施策を進めてまいりたいと考えております。

今後とも、市民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。二期目の市政運営にあたってのごあいさついたします。

北秋田市長 津谷永光

地域の非常に大きな課題であるとし「今年度から今後3カ年の基本計画が始まるが、実施するための財政計画もしっかり把握し、様々な難しい問題を含め、皆さんと取り組んでいきたい」と述べました。

また、人口減少、少子高齢化が急速に進んでいる北秋田市の現状に触れ、重点事項として「財政の更なる健全化」「産業の振興と所得増、雇用の拡大」「産み育てやすい子育て環境の整備」「定住促進」「医療の充実と病院事業の安定」「中心市街地活性化」「再生可能エネルギーへの取り組み強化」「スポーツと芸術文化活動の推進」の八つの政策を挙げ、今後取り組んでいくことを強調しました。

臨時議会で所信表明

● 「活力ある元気な北秋田市」を目指す

4月24日には、平成25年市議会第1回臨時会で所信を表明し「一期目はそれまでの課題の解決と明日への足がかりに取り組んできたが、二期目にあたっては、これまでの基本姿勢と現状認識を踏まえ、うえて『活力ある元気な北秋田市』を目指す」と述べました。そのうえで「職員のコスト意識に加え、市民の声を活かした市民目線の財政運営や、『地域に活力を』の想いを一層強く持つてまちづくりに努め、前例や他自治体の例にとらわれることなく、前を向いた発想と行動を基本姿勢とし、



▲「平成25年市議会第1回臨時会で所信を表明する津谷市長